

藤井しんすけ 議会ニュース 議会録

平成 24 年 防災警察常任委員会 (7)

平成 24 年 12 月 21 日

藤井

今回一般質問で我が会派の渡辺議員が防犯活動を取り上げました。その中で、切れ目のない地域防犯力を構築していくために、若者の防犯活動への参加促進に一層取り組んでいくということで安全防災局長から答弁いただいたんですが、その中で、答弁いただいたところをより具体的にということで質問させていただきたいと思います。

はじめに、ユースカレッジですけれども、今年度8月と12月の2回開催をしたと答弁いただいておりますけれども、それぞれどういった内容を実施されたのか、御答弁いただきたいと思います。

くらし安全交通課長

ユースカレッジの開催状況でございますけれども、第1回を8月22日に開港記念会館において開講いたしました。内容につきましては、日本市民安全学会副会長であります厚木市の危機管理部長による講演、京都府において府内全域で活躍している学生ボランティア団体のロックモンキーズの活動事例紹介、それから警察本部サイバー犯罪対策によるインターネット犯罪に関する知識の講演をしていただきました。その後、参加者による情報交換を行いました。

第2回といたしまして、先週の木曜日になりますが、12月13日に県庁内の災害対策本部室で開講いたしました。内容につきましては、神奈川県内で実際に防犯活動を行っている四つの学生ボランティア団体から、活動の事例紹介、それから参加団体による情報交換を行いました。

いずれの回におきましても、学生たちの熱心な議論が展開されたところでございます。

藤井

そういった中、特に事例紹介というのは非常に大事なところだと思いますし、またポイントだと思っております。御答弁の中で、大学生や高校生が非常によかったということだったんですが、大学生と高校生がどのような割合だったのかということと、それから、その大学生、高校生の実際の感想を紹介させていただきたいと思います。

くらし安全交通課長

第1回の開催につきましては、45名の学生の皆さんに受講いただきました。大学生が25名、高校生が19名、社会人が1名でございます。第2回につきましては、74名の皆さんに参加をいただきました。内訳といたしましては、大学生が4名、高校生が65名、高等専修学校の学生が5名、延べ2回で119名の若い人たちに参加をいただいたところでございます。

また、学生たちの感想というところでございますけれども、個々のものいずれにつきましても、ほぼ全員が大変参考になったと、あるいは、まあまあ参考になったという御意見を頂いております。

具体的には、犯罪が減っていても体感治安が良くなっていないという点で、地域の方々と地道な連携が必要だと感じた、あるいは、若い世代の力をこんなに必要としているところがたく

さんあることを知ることができてよかった、また、活動報告を聞いてみて、みんな同じことをやっていると思ったら、意外と様々な活動をしていることで勉強になったと、このような感想をいただいております。

藤井

それから次に、同じく御答弁の中で、若者向けの防犯出前講座を実施したと答弁をいただきましたけれども、具体的にどういった内容で何回ぐらいやったのか教えてください。

くらし安全交通課長

若者向けの防犯出前講座につきましては、学校側の希望に応じまして、県のくらし安全指導員が現地に赴きまして講義や実技指導を行うもので、本年度からスタートをいたしました。本年度はこれまで3回実施しております。

具体的な内容を申し上げますと、5月には市立戸塚高校の生徒に対しまして防犯寸劇の実技指導を行っております。場所については、警察本部に赴いて行っております。

これは、戸塚高校が防犯ボランティア活動として、振り込め詐欺防止の寸劇をやりたいというようなことで、地元地域で防犯教室を予定しておりました。そこで当課に要請がございまして、くらし安全指導員がその寸劇などの実技指導、それから教室の開催の仕方について助言を行ってまいりました。

7月には鎌倉女子大に赴きまして、教員を目指す学生さんに対して、子供の安全に関わる知識、学校現場で取り組まれている地域安全マップの作成を紹介する講座を行いました。

11月には、横浜創学館高等学校で自転車のマナーアップや自転車盗難防止のキャンペーンを、学内でやりたいという申出がございまして、くらし安全指導員が赴きまして、キャンペーン活動と一緒にしながら、実践的な指導を行ってまいりました。

藤井

そういった取組の成果として、厚木市内の大学の事例だとか保土ヶ谷の高校の事例も出ていましたけれども、他にそういった具体的な事例がありましたら、御紹介いただければと思っています。

くらし安全交通課長

一つは横浜市立大学でございますけれども、中区の環境浄化推進協会と協働いたしまして、コガネックス・ラボという名称で防犯団体を運営しております。この横浜市立大学では、人が輝くまちをテーマに地域安全マップの作成や、子供110番の家の周知をするための活動に取り組んでおります。

他には、藤沢市内の多摩大学では、たまパトという防犯サークルを立ち上げまして、月に4回、地元の防犯団体と一緒に防犯パトロールを行って、それを構成する学生が藤沢北警察署の一日警察署長を務めるなど、地域に根ざした活動を行っているところでございます。

藤井

そういった事例を聞かせてもらえて、本当に思った以上に具体的に活動に結び付いているんだなと思いますし、大変有意義なものだと思います。さっき受講者の割合を聞いたところ、少

し大学生が少なかったところもありますので、もう少し大学生にも頑張ってもらいたければなどは思うんですけども、今後この事業をどのように展開していくのか教えてください。

くらし安全交通課長

学生たちに意見を伺いますと、実際に防犯活動を行っているけれどもユースカレッジのことを余り知らない、あるいは、社会貢献活動を行っているんだけど、防犯活動を加えれば、さらに自分たちの活動の幅が広げられるという意見がございいます。

そういう御意見を持っているということにつきましては、まずは私どもの開催しておりますユースカレッジのことをより広く知っていただくことが大切だと考えます。このため来年度から、市町村への働き掛け、それから大学等への働き掛けによって、それぞれの大学、高校などでも活動情報の収集、あるいはユースカレッジの周知活動を行ってまいりたいと思います。

それから、学生のボランティア団体連絡協議会などを活用した情報の提供、フェイスブックとか、ツイッター等々、若者の視点に立った広報ツールの活用などにより受講者の拡大を図ってまいります。

また、今年度からスタートいたしました防犯出前講座は、まだ十分周知されていないというところもございいますので、地域県政総合センターと連携を図りながら、県内各地域において実施できるように広報に努めてまいりたいと思います。

一方、学生たちがそれぞれの地域で防犯活動に参加していくきっかけづくりを是非とも進めてまいりたいと思っておりますので、自主防犯団体の方々と学生が会う機会が必要だと思えます。このため、12月1日に厚木市内におきまして、自主防犯活動団体の代表者と学生、それから行政機関の方たちによるシンポジウムを開催しているところでございいますので、こういった活動をより積極的に推進してまいりたいと思います。

藤井

こういった形で若い皆さんがいろんな活動の幅を広げるということで、また新たな塊ができて、すごくいいことだと思います。

これからまたその地域全体として考えていくなれば、やっぱり老、壮、青といえますか、いわゆる高齢者の皆さんもそうだし、社会で勤めている方々、それから若い方々、こういう世代間のバランスというのも今後必要になってくると思うので、今まで部分部分になっているものをいかに集約していくか、それはまた行政の一つの役割だろうと、いかにコーディネートしていくかというのは大事なことだろうと思いますので、是非その部分をうまく考え合わせながらやっていただきたいと思えます。ユースカレッジがあるときに、またいろんなベテランの皆さんの活動事例だとかも合わせて、若い皆さんに活躍の場をまた見いだしていただければなと思います。

いずれにしても、地域での結び付き、また地元にこういう方々がおられる、またこういう歴史もある、こういう活動の場があるということを知っていただくのが一番大事なことだろうと思いますので、そういった意味で、さらにいい事例をどんどん積み上げていただいて、一人でも多くの若者に参加していただいて、地域防犯活動がまた、先ほど言うておりましたが、体感治安でより安全になったと実感していただけるような、そういう活動をさらに展開していただくことを要望して、質問を終わります。